

「思川開発事業の検証に係る検討報告書（素案）」に対する関係住民の意見聴取

平成 28 年 5 月 15 日（日） 13:20～13:30

独立行政法人水資源機構思川開発建設所 3 階 BC 会議室

発言者：意見発表者 2

栃木市から参りました●●と申します。よろしく申し上げます。

私は、●●さんみたいな専門的なことは分からないんですが、南摩ダムに関する水問題について、市民レベルの意見といますか目線で発表させていただきたいと思います。

私が南摩ダムに関する水問題を知ったのは、2月6日に栃木市で開催された市民集会でした。この集会では、南摩ダムは鹿沼、南摩ダムは中止になった、という勝手な思い込みがあった私に、一番真剣に向き合わなければいけないのは栃木市民だということを教えてくれました。

ダムの設置は本当に必要なのか、必要ではないのか。ダム問題や水問題に詳しい方のお話をお伺いしたり、ネットでの検索をする中で、南摩ダムはつくらなくてもいい不必要なダムなのではと考えるようになりました。

おかしいなと思うことを幾つか挙げてみました。

1つ目、水がたまらないダムにわざわざ導水路をつくり、他の川から引水する、そんなことをしてまでもダムは本当に必要なのか。

2つ目、県南地域では、豊富な地下水を利用できるすばらしい環境にあるのに、何が悲しくて表流水を利用してまずい水を飲まなくてはいけないのか。

3つ目に、地下水より表流水の方が汚染されやすいことは周知の事実のはずなのに、表流水利用をなぜ奨励しているのか。

4つ目、本来ならば公平、中立の立場に立つべき公的機関が、一方づいた立場にいるのはどうしてなのか。

5つ目、栃木県は「元気な森づくり県民税」という県税を県民から徴収していますが、無駄なダム事業は納税の目的からすると相反するものなのではないでしょうか。

6つ目は、噂といますか、ダム事業としてこういう見解なのかよく分からないのでお聞きしたいことなんです。昨秋の豪雨水害は、南摩ダムがあれば治水対策ができるということを目にしましたが、これは本当のことなのかということです。

7つ目ですが、思川開発事業は検証中ということになっています。検証中という意味を教えてください。

先日、南摩ダム予定地に行ってきました。緑あふれるすばらしい場所が水に沈んでしまうのかと思い、悲しい気持ちになりました。県民でありながら見たことのないオオルリ。小川のような南摩川にはヤマメ。私の住む地域とさほど離れていない場所に、こんなにも自然が豊かな土地があったのだと感動しました。要らないダムのために自然を壊してはい

けないと痛感しました。

栃木市では、「思川開発事業と栃木市の水道水を考える会」を中心に、「まずい水はごめんだ」、「無駄なダムは要らない」と市民運動が盛り上がってきています。4月30日に緊急市民集会を開き、市議会議員へ集会参加を促し勉強会を開催しました。この勉強会には多数の栃木市議会議員、他市の議員の方の参加もありました。総合政策課課長、課長補佐との面談をしたり、婦人団体からは、水道水源に対する要望書を栃木市長宛に提出予定です。これからも、議員や市民とともに活動を広めていきたいと考えています。

「良質な地下水は、健全な土地利用の結果である」と、宇都宮大学●●教授より、水問題についてお聞きしてお言葉をいただきました。

栃木市は、鍋山産廃反対運動問題で水を守りました。だから、今でもおいしい地下水を安心して飲むことができます。木を切り、山を削り、自然のダムを壊してまで、要らない人工ダムをつくる必要があるとは思えません。

栃木市や近隣の地域の方とも連携をとりながら活動を広げていきたいと思っています。以上です。